

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 05 11	中期総合計画主要施策番号		2-03,5-06,5-09		担当課	部・課	農政部 農地整備課		
事業名		県単農道整備事業(県単【農道】)				内線		3154			
						E-mail		nochi@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	農村地域において基幹農道を整備し、農業生産の近代化、農産物の流通の合理化、農村生活環境の改善を図る。									
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 農業近代化施設の整備や輸送力の増大、高速化による農産物流通圏の拡大により基幹となる農道が必要となっている。農村環境の面において、都市に比べ生活環境の整備が立ち後れている。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 車社会に対応した地方都市から大都市への物資の流通が円滑に行われるための道路網整備が進む中、農村地域の道路は都市地域の道路と比べその整備が遅れている。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 流通路としての機能をもつ農道の整備を進め、農産物の流通条件の向上を図る。 併せて農村の社会生活活動にも利用される道路となるよう整備し、農村生活環境の改善を図る。									
		事業内容	県単(ふるさと)農道整備事業(補助率:【県】75%~100%【市町村】25%~0%)								
		実施期間	H4 ~		根拠法令等	県単農道整備事業実施要綱					
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
農業生産の近代化、農産物の流通の合理化、農村生活環境の改善を図る。 「第6次長野県土地改良長期計画」における期間内整備目標(基幹的な農道の整備延長7km(H20~H24))		平成20年度整備目標は、1kmとする。 (目標に対する進捗14%)			平成20年度は、1kmを実施した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下				
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要				
	最終予算額 (A)		千円	292,900	520,420	0	国庫・県単 県単				
	決 算 額 (B)		千円	265,508	325,620		実施方法 直接				
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	25,683	62,620	0	歳出節別 予算現額(最終予算額+繰越額等) 内訳等 565,420				
	概 算 人件費	従事する職員数	人	4.10	2.60	3.40	(単位: 千円) 1地区あたり平均事業期間 5.9年				
	概算人件費 (C)		千円								
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	265,508	325,620	0						
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績				
	実施地区数		地区	2	2	1	20年度完了地区数 1地区				
	基幹農道整備量		km	3	1	1					
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明								
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・地域からは事業の早期完成の要望が強い。 ・地域間を結ぶ基幹的な道路であり、公共性の強い道路整備であることから県の関与は適切である。 ・農業生産や農作物輸送の効率化を図るだけでなく、地域資源と連携し観光と農業を結びつけた地域振興の発展にも大きな効果が見込まれる。 ・コスト縮減に取り組むとともに、早期効果の発現が図られる箇所を重点的に実施し効率的な整備を行っている。				
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	課題の総括		・農産物の流通や農村の社会生活に大きな役割をもつ基盤整備であり、地域からの早期完成の要望が強い。 ・社会情勢の変化等に対応し、必要に応じた見直しを行い、コスト縮減に取り組むとともに、事業効果の早期発現を図る。								